

# 校長室だより

柏原市立堅上小学校  
令和5年度 第16号  
令和6年1月 19日

前号でも少しふれた「能登半島地震」は気象庁の記録上では7回目の震度7となる大きな規模の地震でした。ちなみに過去の6回は[兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)][新潟県中越地震][東北沖太平洋地震(東日本大震災)][熊本地震(2回記録)][北海道胆振東部地震]であり約30年の間に7回起きていることとなります。

この地震では輪島市の観光ポイントである「窓岩」が崩落してしまいました。地域の方にとって当たり前の風景がなくなってしまったことは、避難生活に加えて辛い出来事であることが想像できます(上の写真は2010年1月に訪れた時のもの。下はTHE SANKEI SHINBUNより部分転載)。1日も早く被災した方々の生活が落ち着くことを祈ってやみません。

近畿地方で影響が大きいと考えられ、30年間で70~80%で発生するとされる南海トラフ地震での柏原市の震度予想(あくまで予想です!!)は6弱(右図参照)です。

このようなゆれにあったとき、まずは自分の命を守る皆さんであってほしいと思います。

そのために年間計画で予定した地震についての学習や避難訓練を行ったので簡単に報告します。



## 【防災授業】

1/10に中学年、1/12に高学年・低学年で防災の授業を行いました。学年によって内容は違いますが、各学年のめあては次の通りです。

低学年：じしんがおこったとき、じぶんのみをまもれるようになろう！

中学年：地しんの時におこることを知り、「命」を守るようにそなえよう！

高学年：柏原市における地震の想定を知り、身を守るために必要なことから学び、いざという時に備えよう！

実際に大きな揺れを経験したことがない人がほとんどの中、想像力も使いながらがんばって学んでくれたと思います。



## 【防災教育関連ツール】

高学年の授業で使ったツールを学校HPの「防災関係リンク集」に追加しました。

その中の「揺れやすい地盤」では住所を入力するとその場所の地下の成り立ちや揺れやすさが分かります(やわらかい地盤ほど揺れやすい傾向にあります)。揺れやすい場所ほど、耐震や家具の固定が必要となりますので家庭や関係する場所について調べるのに使っていただきたいツールです。

## 【避難訓練(1/16)】

当初より年間計画で予定していた地震の避難訓練を行いました。先週各学年で行った防災授業で学んだことを思い出しながら、緊急地震速報の音が聞こえたら各自がすぐに身を守る行動をとるのが目標です。全員が速報を聞いて、すぐに机の下に身を隠すことができました。また、授業で学んだ「机が揺れて飛んでいかなないように机の脚を握る」ということも多くの人ができていました。南海トラフの柏原市の予想震度は「6弱」なので、机の脚を握ることはとても大切です。また、大きなゆれは3分近く続く可能性があります。

家庭科室にいた6年生は机の下にスペースがないため、自分が座っていた丸いすで頭を守る姿も見られました。素晴らしかったと思います！

訓練の様子を見てくださっていた柏原市危機管理課の方から講評いただいた内容を紹介します。

〔危機管理課よりの講評〕

○全般

- どの学年も真剣に取り組んでいた。
- 家庭科室では丸いすで頭を守る様子が見られるなど、それぞれが考えている様子がうかがえた。
- 低学年も指示があるまで、静かに机の下に隠れていた。
- 運動場への避難でも私語がなく、整然と移動できていた。

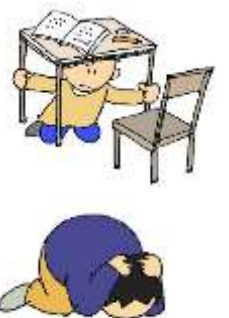
○地震に備えて

- 家で地震に遭った時の想定はできていますか？
- 大きい地震の後には食器やガラスなど危険なものが落ちていることが多いので、日頃からスリッパをはくなど慣れておくとうい。

今後、いろいろな場面で身を守るようになってもらえるように、突然緊急地震速報を鳴らした訓練を行うかもしれません。その時自分がある場所で「自分の命を守る」ことができるように、日頃から安全な場所・危険な場所を考えておくようにしましょう。

保護者の皆様も学校に通っているときには避難訓練があったことと思います。また、現在お仕事先などでも訓練を実施されているかと思います。

ところが、私も含めてですが、家で避難訓練を行っている家庭は意外に少ないのではないのでしょうか？ 子どもたちは1年の中で半分以上の時間を自宅で過ごしています(睡眠時間も含む)。そう考えると、地震や大雨などの自然災害が起こった時、家庭でどのように行動するかについては家族で「決めごと」があると安心です。「訓練」などと堅苦しく考えず、「こんな時はこうしようね」などの簡単なことでも構いません。大切な命を守るように、時には家庭でも話題にしていたらと思います。



## 避難訓練の後の「ふりかえり」より

じしんがきたときテーブルにかくれようとおもった。  
(1年)

このじしんのれんしゅうちょっとこわいとおもって  
いました。あと何かがおちてきそうでした(2年)

わたしは頭をかくしてつくえの足をもつことをいし  
きました。ききかんの人のななしをきいてひなん  
くんれんはだいじだなとおもいました。(3年)

いつおきるかわからないので、きちんと考えてむき合  
うことが大切だなと思いました。  
今日から地しんのそなえをきちんとしようと思いま  
す。  
自分が家族のためになにかできることをやってみよ  
うとおもいました。(4年)

まえまで、あたまをまもれとさんざんいわれてたので  
あたまはいしきしたけど、そのあとが冷静に動けな  
かったのでこの点は6年生にいかしていきたいとおも  
いました。  
あと、これから家ではスリッパをできるだけはいてい  
こうとおもいました。(5年)

今回私たち6年生は家庭科室にいました。放送が鳴  
ったとき机の下に入ろうと思いましたが、下があいてい  
ないタイプの机で、とりあえず腕で頭を守りました。  
少し周りを見ると、イスをかぶっている人が数人いた  
ので、次回の訓練、もしくは本当に地震がおこったと  
きに取り入れようと思いました。  
火事もおきたということになっていましたが、ハンカ  
チで口を押さえるくらいしかできなかったので家に  
帰ってから対処の仕方について調べてみようと思いま  
す。(6年)

じしんくんれん中、ほんとうのじしんがきたらどう  
しようとおもっていた。(1年)

れんしゅうがもし本ばんだったらとてもこわいな  
とおもってました。(2年)

校ちょう先生の話聞いて、その事をおもいだしなが  
らつくえの下にかくれてよかったです。  
そして、ききかんの人たちの話を聞いて、これから  
はもっといろいろなやりかたで命をまもろうと思  
いました(3年)

石川県のとはんとう中心におきたじしんの話をしてレ  
ビで知って、死者がたくさんで地震がもしおきたら  
って考えると、とてもこわいです。でも石川県の地震で  
お母さんとひなんする場所や「171」のいみもし  
てよかったと思いました。訓練だとしても本番だと思  
ってこれからもがんばりたいです。そして、自然さい  
害はとつぜんおきるんだとあらためてしりました。こ  
れからも、地震、火事、地すべりなどもっとひなんの  
しかたを覚えてじっさいにくんれんしたいです。  
(4年)

これからは回りを見てできるだけあぶなくない所で  
頭を守っていきたいです。  
今日実際にやってみて自分でもあわててしまい、すぐ  
に頭をかくすだけしかしなかったから次あるときは  
そこをもくひょうにがんばっていきたいです。訓練し  
てみて、まだ自分が落ちつけていなかったから、落ち  
着いて、そして次の行動がすぐ取れるようにしてい  
きたいです。(6年)

家庭科室にいたので机がありませんでした。なので丸  
いすで頭を守りました。私のお母さんははんしん大  
しんさいにあっているのが元旦のじしんもれいせい  
にしじをしていました。家のたなとかたおれないよ  
うにしようと思いました。家にはたなとかがいっぱいあ  
ってじしんがおきたらすぐたおれるので固定しよ  
うと思えます。いちおうひじょう食とかはかばんのなか  
にあるので水とかもこれからはひなんグッズをよう  
いしたいとあらためて思いました。(6年)

## こうちょうせんせいより

○低学年の感想を見ると、くんれんであっても「こわい」おもしろいをさせたんだね。ごめんね。でも、くんれんをし

ておくことで、いざというときからだごうごうようになります。「こわい」なかでも机のしたにしっかりとぐ  
ってあいつがあるまでじっとしていたすがたやせんせいのしじをきいてしづかにうんどうじょうにひなんしてい  
たすがたはりっぱでした！

○中 学年以上になると危機管理課の方の話 を聞いて、新 しい気づきがあった人が多かったですね。また、周囲  
の人を見て、よいなと思 ったことを活かしていこうという 姿 や、自分の行動が冷静でなかったとふりかえる人  
もいました。さすがですね！ 次 の機会に一歩進んだ自分がいれば今回の訓練が生きている証 です。今回のふ  
りかえりを生かして次回も頑張 きましょう。

○大きな地震の時には、大人でも冷静でいられる保証はありません。だからこそ、訓練によって身体が動くよう  
にしておくことはとても大切です(野球やサッカーなどのスポーツ、ピアノ演奏などで繰り返して練習をする  
ことと同じです)。それにより、大きな災害のときに自分を守る可能性は高くなります。

○今回も多くの人が真剣に取り組んでいました。危機管理課の方も感心しておられました。これからもその姿勢  
を忘れず取り組んでください。

## さいごに

危機管理課の方が家の中でスリッパをはくことの意味を説明してくださいました。みなさんが夜寝るときは  
部屋は暗いと思います。そして、大規模災害の時は大きい確率で停電がおこります。夜間の災害は周囲が見え  
ないため、地震の際は割れた食器や窓ガラスが落ちていても気づきにくいです。そのようなときに足を守るた  
めに部屋ばきとしてスリッパの有効性を伝えてくださいました。

校長先生はふだん家でスリッパをはきませんが、万が一に備えて、夜寝ている場所の横に運動靴をおいてい  
ます。地震があったときはこれをはいて家の中を歩くつもりです。よければこれも参考にして、自分に良い方法  
を考えてみてください。